SCRUM No.12 JUNE-JULY 1997

「ピザと交通安全標語」

全日本交通安全協会常務理事
評議員　田邉　八州雄

昭和39年は、東京オリンピックが開催され、日本が第2次世界大戦から20年を経ずして見事に復興した姿を世界中の人々に見てもらおうとの気運が満ち溢れていました。都心には高速道路（正確には自動車専用道路）が出来、新幹線も走り始めた年です。この年の国家公務員試験に「国旗について思うことを述べよ」との問題が出されたのも、こうした社会情勢を反映したものと思います。

前記の試験に何と答えたのか、無事試験に合格した若者が17人、40年の春には、都内某所の研修所で、3ヶ月も缶詰状態になって新人教育を受けておりました。

彼らの数少ない楽しみの一つが週一回の「英会話」の時間でした。それは、先生が米国人の女性であったからです。あるとき、先生が食べ物の話しをしていて、「ピザ」と言ったところ、誰も分かりませんでした。彼女は、ピザの材料や作り方を一生懸命説明するのですが、生徒の方はかえってチンプンカンプン。その時、ある男が立ち上がっていわく「ジャパニーズ・オコノミヤキ」。今度は、先生が「オコノミヤキ？」「ジャパニーズ・オコノミヤキ？」と目を白黒、そこで、今度は生徒の方が「お好み焼き」の説明に四苦八苦でした。

あれから30数年、今ならピザを知らない若者は居ないだろうし、ピザの現物を教室に届けてもらい、実物を賞味して納得することも出来たでしょう。

30年前の昔話を、恥を承知で書いたのは、交通安全年間スローガンとして使用している標語の募集が始まったのも、丁度昭和40年であったからです。

全日本交通安全協会と関係官庁、諸団体、毎日新聞社等が集まって毎年、募集・選定しています。

運転者向け、歩行者・自転車利用者むけ、子供からの募集の三つの部門ごとの最優秀作品が一年間交通安全の場で使用されていますから、皆さんも見たり聞いたりして、その幾つかは覚えて居るのではないでしょうか。

名誉ある第一号は、

「世界の願い　交通安全」

「ブレーキは早めに　スピードは控えめに」

「もう一度　よく見て渡れ　手をあげて」　でした。

オリンピックと並ぶビッグイベント、昭和45年の大阪万国博覧会についても当時の雰囲気を反映した作品が佳作になっています。

「万国博に　示せ日本の　交通マナー」

この作品程ではなくとも、標語にはそれぞれの時代の交通情勢が色濃く漂っています。

「せまい日本　そんなに急いで　どこへ行く」　や

「急ぐほど　減らす燃料　増す危険」などは、本格的な高速道路の時代に入りながら、一方では、突然のオイル・ショックに見舞われ、また、公害問題にようやく国民の関心が向かい始めた状況をあらわしています。

「平静に　ゆとりで走る　新時代」

これは説明するまでもなく、平成2年の総務庁長官賞の作品です。

「運転が　示すあなたの　お人柄」

「運転は　気くばり目くばり　思いやり」

「のせましょう　ゆとりという名の同乗者」　などの標語も好評でした。

ここで、バイクに関するものを幾つか拾いだしてみましょう。

「事故だけは　ミニではすまぬ　ミニバイク」

「お嬢さん　よく似合います　ヘルメット」「暴走は　しない　させない　ゆるさない」

「軽いバイク　かるいこころが　重い事故」

子供向けと、お酒に関する傑作をあげるとすれば、

「とび出すな　車は急に止まれない」と　「のんだら　のるな　のるなら　のむな」でしょうか。

ところで、今年の運転者向けの標語は、

「"モシ・モシ"は　車に乗る前　降りたあと」です。

一軒づつ注文を受ける毎に温かいピザをお届けしているのですから携帯電話は不用のことと思われますが、マイカー運転の時を含めて、今年のスローガンぜひ守って安全運転に努めましょう。そうすれば

「ただいまと　笑顔ではずす　ヘルメット」になります。

ピザ等宅配業安全運転管理協議会は4年前の9月22日に発足しましたが、当時全日本交通安全協会の常務理事をしておられた山﨑　毅様に、当協議会の評議員を兼任して頂くようにお願いし、全日本交通安全協会の平岩会長のご承認を得て、就任して頂きました。この度山﨑様は中小企業事業団の理事に就任される為に全日本交通安全協会を辞任されましたので、山﨑様の後任者としてこの3月24日に全日本交通安全協会の常務理事に就任された田邉八州雄様に評議員をお引受頂くことに成りました。

田邉先生は昭和40年に立教大学法学部を卒業して警察庁に入られ、警察大学校交通教養部教授、神奈川県警交通部長、警察大学校交通教養部長から警察庁交通局交通指導課長を歴任された交通の専門家であられます。先生はその後、三重県警及び茨城県警の本部長を経て退官された高名なお方です。今回ご無理をお願いして「スクラム」の為にご執筆して頂きました。